

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171100629		
法人名	社会福祉法人椿寿会		
事業所名	シニアレジデンスつばき		
所在地	埼玉県北葛飾郡杉戸町才羽2123		
自己評価作成日	平成31年2月12日	評価結果市町村受理日	令和元年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	平成31年4月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景に囲まれた場所に立地しており、交通量も少ないため、利用者様と安心して散歩をすることができます。敷地内には広い駐車場があるので、長い距離を歩くことが出来ない利用者様も、散歩や外気浴を楽しむことができます。建物は平屋建てで、バリアフリー対応となっており、足の悪い利用者様も歩きやすくなっています。1ユニット9名の施設が、2ユニット繋がっているのでレクリエーションやイベントなど、合間で楽しむことも多くあり、普段同じフロアで生活しているのと違い、お友達が尋ねて来た雰囲気になり新鮮な様子です。施設の周りには植木があり、四季折々の花を楽しむことができます。畑では、いもやナス、ピーマンなどを皆で育てており、苗の植え付けから水遣りなど利用者様と一緒に収穫や食べるのを楽しんでいます。利用者様がそれぞれできることを行いながら、少しでも生活の中で張り合いを感じることができるようお手伝いしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・大相撲や高校野球のテレビ放送を楽しみにされたり、編み物や裁縫、畑での野菜づくりを楽しむなど、利用者のその人らしさと思いを大切に、健康で明るく、楽しく過ごされるよう支援に取り組まれている。
- ・運営推進会議では、事業所から利用者の暮らしぶりや活動報告のほか、災害や事故対策、地域の情報提供など、幅広い内容での話し合いが行われるなど、有意義な会議運営がされている。
- ・目標達成計画の達成状況についても、ご家族向けの定期連絡時には利用者の暮らしぶりをしたためた手紙と外出やレクリエーション時の写真を添えるほか、行事計画表も送付するなど、理解を深めていただくよう、取り組まれていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り後に全員で「介護理念・運営理念」を唱和し、介護の仕事に活かす努力をしている。	「季節を感じることを出来る生活作りを支援します・日常生活の中で、身体機能の維持が出来るように支援します」の理念のもと、利用者の思いを大切に、健康で明るく、楽しく過ごされるよう、利用者本位のサービスが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の文化祭や杉戸ピアで行われるサマーコンサートに入居者様の作品を出展し、見学に行っている。事業所の行事に地域のボランティアの方に来て頂き交流を図っている。	散歩や買物など、外出の際には地域の方と挨拶を交わされたり、地域の集いや事業所催事でも地域の方やボランティアとの交流をされるなど、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3ヶ月に一度運営推進会議を通して、役場・地域の方やご家族に更に理解を深めて頂けるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見や質問を職員で更に検討し、サービス向上に活かしている。	事業所から利用者の暮らしぶりや活動報告のほか、災害や事故対策、地域の情報提供など、幅広い内容での意見交換が行われ、事業所運営やサービスに活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場にて連絡・報告・相談等を行い、その時々適した助言や指導を頂いている。	行政の担当者からは運営推進会議でアドバイスを頂いたり、報告・相談・申請手続きの際や事業所連絡会議などでコミュニケーションを図られ、良好な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月会議を開き身体拘束の理解を深めている。玄関にセンサーを設置し、異常があれば直ぐ対応できるよう努めている。	身体拘束適正化委員会が定期的に行われている。その機会に拘束に関する学びの時間をもち、身体拘束の内容とその弊害を確認、言葉での拘束を含め、行動抑制をしないケアを実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見逃すことがない様、職員一人ひとりが注意を払っている。又勉強会を開き虐待の理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様への理解を深める様、勉強会等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時、契約時に事務所にて説明を行い、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議に参加して頂いたり、面会時にお話をした際にご家族様の要望を汲み取れるよう努めている。	「キャラメルが食べたい」「家が心配なので帰りたい」など、利用者の要望に応えられている。家族については面会時や運営推進会議で意見・要望を聞き取られている。その意見や要望は職員間で話し合い、サービスや運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているカンファレンスにて、意見を上げることが出来る。	定例会議のほか、日常の業務の中でも話し易い職場環境が作られ、意見・提案の聞き取りをされ、行事やレクリエーション企画など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト面でも考慮し、資格取得へのスクーリング出席等を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加を促し、レベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来るだけ外部研修に参加出来る様、シフト面で配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安に思われていることを良くお聞きし、少しでも軽減出来る様話を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学して頂いた時に、困っている事・不安な事などを良くお伺いしたうえで、十分な説明を行い信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様の要望を良くお伺いし、必要としている支援を見極められるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの生活を大切にし、出来る事は行って頂き支援が必要な部分は一緒に行いながら信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事に参加して頂いたときに近況報告をさせて頂き、当所での生活を理解して頂く様努めている。行事の参加なども積極的に呼びかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の面会時には明るい挨拶を心がけ、又来て頂けるよう声掛けをしている。	友人やご近所の方の面会、地域の集いに出かけ、馴染みの方とおしゃべりを楽しんでいる。また、家族の協力を得ての墓参りや外食、ご自宅に戻りゆっくり過ごされるなど、これまで大切にしてきた関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの入居者様の性格や行動を読み取り、孤立しないよう、無理のない関係が保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもご家族やご本人に、近くにお越しの際にはお寄り下さい等声掛けをし、相談や支援のサービスへ繋げている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの個性を大事にし、その人らしく生活できるよう取り組んでいる。	利用者とのコミュニケーションと信頼関係を大切に声かけを行うことで、思いや意向の把握に努められている。把握が難しい利用者についても、言葉や表情などから汲み取られ、職員間で話し合い、利用者本位に検討をされている。	利用者の思いを大切にしたケアに十分取り組まれています。利用者個々のやりたいことや外出など、その思いに応え、更に満ち足りた時間を過ごしていただくための取り組みに期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や入居者様から情報を得、共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌、個人記録等により、朝夕の申し送りで共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の担当者会議を行い、ケアの継続や改善点を話し合い情報を共有している。	利用者・家族から思いや意向を聴きとり、居室担当を中心に、医師の指示を含め、関係する職員間で意見交換を行ない、その人らしさを大切にした介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個人記録を通してチームで取り組んでケアの向上を目指している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズを正確に捉え、柔軟に対応し、ご家族や入居者様が安心して暮らせるサービスの提供に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1回ボランティアの先生にパドル体操を教えて頂き、身体を動かしている。納涼祭やクリスマス会などもボランティアの方に来て頂き一緒に楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望をその都度お聞きし対応している。入居者様の掛かり付け医に情報提供を求め、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診時には健康状態など、必要な情報提供を行ない、適切な診療に役立ててもらえるように支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいないので、毎日のバイタル・食事量・水分量・排尿・排便回数など協力病院にFAXし助言を求めている・体調不良時はその都度連絡し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に行き情報収集し、ご家族様には入院計画書等の情報を求め入居者様が安心して戻れるよう声掛けしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご意見を伺い説明を行っている。重度化した場合、主治医から説明や指示を受けご家族と方向性を探し、支援に取り組んでいる。	利用者の症状に合わせ、重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一を図られている。その後も意思確認を進めながら、希望に沿った最大限のケアに向けた取り組みが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを直ぐ分かるところに掲示し、職員がそれに基づき素早く対応できるように心掛けている。AEDの扱いなども定期的に訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。又災害時相互援助協定があり同法人より、援助が可能となっている。	定期訓練では、日中に台所からの火災発生を想定し、初期消火・通報・一次避難場所までの避難誘導訓練に取り組まれている。また、水害発生を想定し、避難場所への経路と所要時間の計測など、体制整備に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いは一人ひとりが注意しており職員同士でも気をつけている。基本の声掛けは敬語で行っている。	他の利用者がいる場所での「トイレ」という言葉を嫌う方には、一切使わないことや「その言葉がけで利用者はどう感じるか」との思いを常に持つなど、職員全員、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉掛けや対応で自ら決定することが出来る様注意している。希望が言えない利用者様も多くその思いが汲み取れる様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重した中で、出来る限り希望に添えるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度床屋さんに来て頂いている。又季節に合った服装が着られる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやテーブル拭きなど利用者で行っている。食事中にメニューについて話をしながら一人ひとりの好みなどを把握できるよう努めている。	利用者の個々の状態に合わせて、下膳や食器拭きなど、出来ることを職員と共に行っている。ひな祭りにはちらし寿司や甘酒が提供されたり、サンドイッチづくりを楽しまれるなど、食の楽しみを大切にした支援に取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された業者のメニューを使用し、食べる量や形態も一人ひとりに合わせて対応している。同じテーブルで食事を変化を感じ取れるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	居室で行う事が出来る利用者に対しては声掛けを行っている。見守りが必要な利用者はホールにて行い必要に応じて介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて対応している。夜間オムツ利用の方も日中はトイレでの排泄を維持できるよう支援している。	トイレでの排泄を基本とし、利用者一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、事前誘導を心掛けるなど、きめ細かなケアをされ、負担軽減と自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便についてはチェック表に記入し把握している。医師処方薬を服用している利用者についても排便が促進されるよう体操や散歩を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとり入浴日を決めて対応している。他入居者様と一緒にたくない方など、その人ごとに配慮して行っている。	利用者の状態に合わせたシャワー浴を含め、希望に沿った支援をされている。また、脱衣所や浴室内の温度管理など、ヒートショック対策や職員複数での支援など、安全対策がとられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節毎の寝具の交換や日々の洗濯等清潔にも配慮している。休息もそれぞれ行う事が出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとに薬を把握し、服薬前後に、対応する職員とは別の職員が確認することで誤薬をしないよう注意している。又服薬後の様子の変化にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ごとに出来るお手伝いをお願いしている。洗濯物干し、畳み、テーブル拭き、食器拭き等。レクリエーションの内容についてもそれぞれの好みに配慮できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩や外気浴を心掛けている。地域のサマーコンサートやお花見などに出掛気分転換できるよう支援している。	緑豊かな敷地内での散歩や外気浴のほか、利用者の希望に沿い、季節毎の花見や地域のイベントなどに出かけられている。また、家族の協力を得ての墓参りや外食、ご自宅に戻りゆっくり過ごされるなど、利用者の希望を大切に支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事務所で管理している。希望があれば付き添って買物などの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時には事務所の電話を使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内のテーブルの配置は利用者の状況に応じて対応している。歩行しやすいよう空間の整備にも配慮している。季節を感じることが出来る内容の掲示物を利用者として飾っている。	共用スペースには、カラフルな布地を使った樺や桜の貼り絵が飾られ、季節感ある装飾で明るい雰囲気を出され、利用者が気持ちよく、ゆっくり過ごせるよう工夫をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	楽しく会話したりゆっくりと過ごす事が出来る様、テーブル席に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持参され使用することが出来る。自分の作品を飾ったり、好きな物を置いたり、一人ひとりの居室作りを心掛けている。	馴染みの寝具や家具、可愛い子犬や家族の写真、自ら描かれた水彩画が飾られるなど、利用者が居室内で落ち着いて生活できるよう工夫をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の居室が分かる様名札を掛け、利用者によっては座る位置にも配慮している。(居室を覚えやすいように)段差がなく手すりも設置されており転倒防止にも努めている。		

(別紙4(2))

事業所名: シニアレジデンスつばき

目標達成計画

作成日: 平成 31 年 4 月 30 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	利用者個々のやりたいこと、希望に沿うことが出来ていない。	一人ひとりの希望を叶えられるよう援助する。	担当者がそれぞれの希望を聞き取り、誕生月等にその要望を叶えるべく計画を立て実行する。外出先など細かい希望がある場合も、出来る範囲で調整して対応していく。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。